

「わんずまざー」 問題を考える

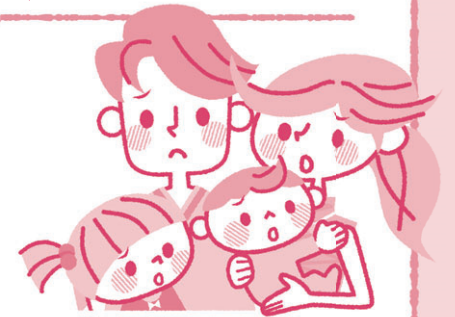


わんずまざー 保育園問題とは

姫路市の認定こども園「わんずまざー保育園」が、定員を大幅に上回る子どもを市に隠して直接契約で受け入れるなど、法違反を含む不適切な保育を行っていた問題。同園では、保育士の架空配置や、給食を削って与える、冷暖房を控えるなど、劣悪な保育が行われていました。

「子ども子育て支援新制度」で 間に合わせの受け皿づくり

2015年スタートの新制度。国や自治体は、増え続ける待機児童に対し、「認定こども園」や小規模保育、認可外保育所など、基準がばらばらな施設を、認可保育所と同じ枠組みで扱うことで、数を確保しようとしてきました。質の確保をしないまま、「間に合わせ」の受け皿づくりをしたことが、今回の問題の大きな原因です。



認定した県の責任は重い

保護者のひとりには「認定」とあるから信用して預けた」と話していました。

「わんずまざー保育園」を認定こども園として認定したのは兵庫県。県には、そもそも認可外保育所だった同園を、認定にふさわしい施設かどうかきちんと審査する責任がありました。

また、基準を満たしていない施設が参入しやすい、規制を緩和した条例をつくっていたことも重大です。

県知事は、責任を認めて子どもたちと保護者、県民に謝るべきです。同園を認定した経過を明らかにし、しっかりとした検証と再発防止策をとるべきです。



こどもたちのすこやかな成長を

同園に預けられていた子どもたちの健康と発達が心配されています。行政が今後も継続して見守り、子どもと保護者が安心できる環境を整えることが必要です。

そして、すべての子どもたちがすこやかに成長できるよう、安心できる保育の充実を求めて、ごいっしょに国や自治体に声をあげましょう。

